

霧島

広報きりしま

10
October.2012
VOL.152

特集 Special Feature

霧島の農業の未来を考える

チャレンジ The 農業



Kirishima City Public Relations, Japan
2012.10.10発行 VOL.152

霧島 広報きりしま



発行/〒899-4394 鹿児島県霧島市国分中央三丁目45-1 世/0995-45-5111(代)
ホームページ/URL http://www.city.kirishima.jp ■メール/アドレス/E-mail info@city-kirishima.jp
編集/秘書広報課 TEL/0995-64-0955 FAX/0995-64-0934 ■印刷/国分新報社印刷



広告

Wedding photo

結婚式は挙げないけど
写真は残したい・・・
そんな夢を
光輝PhotoHouseが叶えます

ドレスコース
(衣裳・支度・写真六切1枚)
平日 ¥45000
(土日・祝日はプラス¥5000~となります)

回ヶ撮影の出来る
ガーデンスタジオも
大人気!!

※上記の金額は全て税別です※



神宮での挙式をお考えの方も
お気軽にご相談下さい☆

TEL 0120-68-0331

10月の平日のみ
撮影・写真代の10%OFF
10月いっぱい撮影の方はお支度料無料で
撮影用衣裳は無料です(一部の衣裳を除き)

前日の衣裳レンタルを
19/31までに決めると30%OFF
200着以上を展示中!!

☆お子さんの可愛い笑顔を
ちゃんと残すこと、それが
パパ・ママの宝物になる☆

七五三・七草 Anniversary

【国・県・市の主な新規就農支援策】

◎国

- 新規就農総合支援事業
就農前後の新規就農者に対して給付金を給付。

◎県（外郭団体含む）

- 農業後継者育成基金事業
農業を担う新規参入者などの営農資金や生活資金に対し助成。

●就農支援資金

- 農業研修や資格の取得、住居の移転、機械の購入、施設の設置などに対して資金を貸し付け。

◎市（外郭団体含む）

- 農業後継者等育成就農支援事業
指定の農家などで研修を行った新規参入者や農業後継者などに受け入れ農家と市から助成金を支給。

●新規就農者等スキルアップ支援事業

- 新規就農者が経営の改善や能力向上のため、大型特殊免許やけん引免許を取得した場合、経費の一部を助成。

※事業によって対象要件が異なります。詳しい内容や支給額などについては、お問い合わせください。

問＝国と市の支援について…農政畜産課 ☎(64)0882

県の支援について…

始良・伊佐地域振興局農政普及課 ☎(63)8214

しずつ就農者の数が増えています。中でも農業経験のない新規参入者が増えています。平成22年の市の新規就農者は11人で、うち7人が新規参入、昨年は10人中6人が新規参入でした。

市の担当課への相談も増えており、少しずつ注目を集めだした農業ですが、市場価格の低下、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）問題など農業を取り巻く環境は厳しい状況です。それでも地域の魅力とつながりを生かして、農業を守り、活性化につなげようとしている人たちがいます。

農業を活性化させるために国や県、市などでは、担い手をサポートするさまざまな支援を行っています。

市の「農業後継者等育成就農支援事業」もその一つ。新規就農を目指す若者や後継者を対象とし、実際に農家で農業を体験しながら学びます。研修期間中は、市と受け入れ農家や企業が半分ずつ負担して賃金が支払われ、経験がある人、ない人に関わらず、農業を目指す若者が安心して研修を受けることができます。

それらの支援もあって最近では、少

農業を守る

平成22年度の日本の農業者数は約260万人。全人口の3%にも満たない数です。平均年齢は65・8歳で、高齢化が進んでおり、35歳未満は5%と後継者が不足しています。耕作放棄地も増えていて、その面積は埼玉県とほぼ同じ広さです。

霧島市でも農家の数が減っています。平成2年に9443人だったのが平成12年は6791人、平成22年は5066人と20年間で約4400人も減少しました。耕作放棄地は、平成20年に約298万平方メートルだったのが昨年は約655万平方メートルと、わずか3年で倍以上に増えています。

私たちの「食」を守ってくれている農業。

しかし、高齢化や後継者不足など農業が危機に面しています。

このままでは、私たちの食卓に日本産の食材が並ばなくなることも…。

そんな中、農業を守るために頑張っている人たちがいます。

今回は、農業の未来、可能性について考えます。

霧島の農業の未来を考える

チャレンジ The Agriculture 農業

新規就農者の岩戸秀樹さん(国分)。昨年8月に農業研修を終えて9月に独立し、有機野菜作りに励む。手に持つのは今年初めて収穫したニンジン。

新規就農者

「農業のやり方はたくさんあります。だから可能性は無限に広がるんです」。笑顔でそう話すのは隼人町姫城の有元仁さん。

地域活動に積極的に参加していた亡き母のように何か地域に貢献したいと思っていた有元さんは、生産者が減っている農業を守りたいと思い、4年前、28歳のときに勤めていた福岡の会社を脱サラ。家族でふるさとの隼人町に戻り、親戚から借りた休耕地を鋤き1本で開墾。これが農業人生のスタートでした。

農業経験のない有元さんは、昼は農作業、夜は県立農業大学校主催の夜間塾で農業の基礎を学びました。さらには自ら地元農家に志願し、1年間研修を受けました。今でも農家を回ってノウハウを学んだり、本やインターネットなどから知識を得たりしています。

「ゼロからのスタートだった私にとって、農家の皆さんが先生です。農業を教えてくださいと飛び込みで行っても優しく受け入れてくれました。今の私があるのも畑を貸してくれる地主さんを含め皆さんのおかげ。そして農業をすることに反対もせずにごフォロワーしてくれる妻や家族のおかげです。

日々勉強、日々努力して、おいしい野菜を作ることが私にできる恩返しです」。飽くなき探究心と周りの支えによって、現在では耕作面積が2畝を超え、12月には認定農業者、今年5月にはエコ・ファーマーを取得するなど結果を残しています。

「野菜は先をイメージし、その時の環境にあった育て方をしないと、おいしいものはできません。そのためには霧島の四季を感じ、自然と対話することが大事。いつも違った表情を見せる畑に行くのが一番の楽しみなんです」

自然との対話を大切にして有元さん。名刺には「季節とともに月と対話し、土と対話し、植物と対話し、咲く花と対話する」と書かれています。

有元さんの夢は「霧島の農業を守ること」。そこには、ふるさとへの思いが込められています。「日本の風景を守ってきたのは百姓です。農家がいなくなると荒れ地が増え、あの美しい田園風景はなくなってしまう。食を守るため、そしてふるさとの風景を守るためにも、私みたいな新規就農者を増やし、社会全体で農業を支えていけるような仕組みを作っていききたいです」

集落営農



集落営農を成功させるためには心のおせをなくすこと

武田透さん(写真前列左)とイザナギ会員

活動が始まったのは平成8年。水田が広がる同地区でしたが、コメの価格の下落により兼業農家が多くなり、さらに高齢化により農業をしなくなる人が増えていきました。この状況に危機感をもった地域の方たちが、イザナギの前身となる「中津川農用地利用改善組合」を発足し、農作業の受託を始めました。同組合が最初に取り組んだのが「おせをなくす」。所有者がそれぞれ違う15筆2・2畝の水田のおせを取り払い、4筆の水田にしました。そのことで農業機械の効率化と共同作業を実現。これをモデルにほかの田畑でもおせをなくし、作業の効率化に成功しました。しかし、最初から順調にはいきませんでした。ほかの地域でも集落営農が進まない理由の一つに「先祖から受け継ぐ田畑は自分のもの」という強い思いがあります。同地区でもおせを取り除くことに抵抗がある人が多くいました。

そこで、同組合ではアンケートや研修を実施し、それぞれの農家の思いを聞き、「中津川の農業を守るために」と説得。高齢化と担い手不足への不安もあり、集落営農への機運が高まります。みんなで農作業するイザナギメンバー。おせをなくし広がった中津川の田んぼ。武田さんは「地域に活気が出ました。顔を合やす機会が増え、みんなで協力する楽しさを感じることができ、農業が憩いの場になっていきます。昨年、待望の後継者が2人加わりました。今後は特産品開発や販売もしていきたいです」と意欲を燃やします。中津川に耕作放棄地はありません。あるのは、いきいきと農作業に励む地域の方の笑顔です。

牧

園町中津川地区に今年3月、農事組合法人「イザナギ」が発足しました。

同組合の会長で、イザナギの代表理事でもある武田透さん(78)は「自分の田畑を守りたいのはみんな同じです。地区の農家の平均年齢は70歳を超えています。個人では守り切れないところまで来ています。それを打開する一つの道が集落営農でした。成功させるためには心のおせを取り除くこと。今、みんなで農業を守ろうとしています」と手応えを感じていました。

心のおせをなくし一つになった中津川の農業。さらなる発展のために県内では11例目、市内では初となる集落営農の法人化に成功。コメやサトイモ、ソバなどを作っています。武田さんは「地域に活気が出ました。顔を合やす機会が増え、みんなで協力する楽しさを感じることができ、農業が憩いの場になっていきます。昨年、待望の後継者が2人加わりました。今後は特産品開発や販売もしていきたいです」と意欲を燃やします。



写真左から長男・空くん、父・勝利さん、仁さん、妻・めぐみさん、長女・陽菜ちゃん



自然との対話を大切にして霧島の農業を守りたい

有元 仁さん(32) 隼人町出身、高校卒業後、福岡の専門学校へ。卒業後福岡で飲食関係の仕事につき28歳で脱サラ、隼人に戻り平成21年3月から農業開始。同年7月県立農業大学校夜間塾修了、平成22年3月認定農業者認定、同年11月K-GAP取得(コボウ部会)、平成23年11月家族経営協定締結、同年12月認定農業者認定、平成24年5月エコ・ファーマー認定。

野菜と会話しながら農作業する有元さん

※田と田の間に土を盛り上げた境部分

時代の流れを読む

ヘンタ製茶(有)代表の邊田孝一さんは、牧園町で父から受け継いだ茶畑を守り、品質の良い「霧島茶」を生産しています。

しかし、茶生産者にとって今は厳しい時代。手軽に飲めるペットボトル茶の普及でリーフ茶の売れ行きは悪く、市場価格の安さなどもひびき、生産をやめる農家も増えています。

この局面を開拓するために邊田さんがとった策が「動く」でした。県内外の物産展や商談会に積極的に参加し、霧島茶を売り込みました。

「今まではおいしいものを作ればよいと思っていましたが、産地賞を3年連続獲得した霧島茶でも、まだまだ全国から見たら知名度が低く、待っていても買ってくれませんでした。消費者やさまざまな業種の人と直接話せる場所に出て行って、自分から魅力を売り込むことが消費拡大につながります」

これまで生産をメインにしてきた邊田さんにとって、物産展や商談会は未知の世界でしたが、持ち前のチャレンジ精神で、人気の販売店や大手企業の販売方法を研究し、陳列の仕方や試飲品の出し方、パッケージのデザインなど、販売のノウハウを吸収していきました。

霧

霧島高原ロイヤルポークの平邦範さんは、霧島にこだわった「霧島高原純粋黒豚」を生産しています。

喜界島出身の平さんが黒豚に出会ったのは25年前、埼玉県で仕出し店を営んでいたころ、同郷のお年寄りに奄美の郷土料理「豚みそを食べたい」と言われたのがきっかけで、おいしい豚肉を探し、霧島の黒豚に出会いました。

その味にほれ込み、昭和63年に黒豚の流通専門の(有)霧島高原ロイヤルポークを設立。平成元年には霧島に移住し、その後、霧島永水に販売・飲食まで手がける(株)フロンティア霧島を設立し、産直レストラン「黒豚の館」をオープン。黒豚料理は口コミで広がり、国内外のテレビや雑誌などで紹介され、観光客などが大勢訪れ、週末や祝祭日もなると2時間待ち、駐車場には県外ナンバーやレンタカーが並びます。

鹿児島市などへの出店話もありましたが、平さんは地元こだわりますが、「ほかでも食べることができるとなると霧島市まで来なくてもよくなる。霧島の風土に育てられた黒豚なんだから、地元で還元したい。だから、このまちにこだわります」

平成11年には県知事のお墨付きでもある「かごしまブランド」の認定を受け、平成14年にはその取り組みが評価

農・商・工・観の連携

されブランド産地賞を受賞しました。しかし危機が迫ります。元々、数が少なかった黒豚生産者の高齢化や施設の老朽化など、畜産を取り巻く経営環境の悪化で生産を辞める人が出てきたのです。そこで平さんは、生産者と一

緒に農事組合法人「霧島高原純粋黒豚牧場」を立ち上げ、国の事業などを活用して黒豚の一貫生産施設を造りました。ここでは見学の放牧場も整備されています。そこには平さんの狙いが

ありました。「霧島市は観光のまち。生産・加工・販売といった農商工の連携だけではなく、観光も一緒にすることで波及効果がさらに高まると思います」

最近では「黒豚の館」を観光の目的地として訪れる人も増えています。店内には市内の観光パンフレットなども置いてあり、そこを拠点に霧島観光を楽しむ方がいます。これこそ平さんが目指す農・商・工・観の連携。平成20年には、この取り組みが日本の先進モデルとして「農商工連携88選」に選ばれました。



霧島高原ロイヤルポーク 社長 平邦範さん 農商工連携88選



ヘンタ製茶(有) 代表 邊田孝一さん 農林水産大臣賞受賞



霧島高原純粋黒豚牧場の一貫生産施設

進化する農業経営

生産だけでなく、自ら加工・販売し、注目されている人たちがいます。そこには、農業の新しい形がありました。



ヒット中の「シェイクイット!霧島緑茶」と「まるごと緑茶へにふうぎ」 ©ヘンタ製茶(有) 02(7)2777

「味には自信があります。でも、それだけではお客さまに見向きもしてもらえません。人気店は見せ方、売り方などにもこだわっていました。今からは農家も販売人になることが必要だと思います」

邊田さんは、お茶を身近に感じてもらうために、お茶を使ったおかずやお菓子などの加工品も販売しています。中でも昨年4月に発売した、キャップをひねると粉末茶がボトルに落ち、振る(シェイク)ことでおいしい緑茶が手軽に味わえる「シェイクイット!霧島緑茶」は、リーフ茶のような淹れたてのおいしさでペットボトルのような手軽さが人気を集め、約7万本を売り上げるヒット商品になりました。

「商品を作るためには、消費者のニーズに合うことが大切です。そのためには時代の流れを読むことが必要。物産展や商談会を経験して、そのことを一番実感しました」

生産技術と経営能力などが評価され、邊田さんは昨年、モンドセレクション金賞を2年連続で受賞、全国農業コンクールでは10人しか選ばれない農林水産大臣賞を受賞しました。

邊田さんは「これからも積極的に商品開発などにチャレンジして、霧島茶をそして地元をアピールしたい」とさらなる発展を目指していました。

さらに平さんは、農・農連携の大切さも訴えます。

「うちで出たふん尿は、農家で堆肥として使い、そこで作られた作物が豚のえさになります。農家同士が連携することで環境にも優しい循環型農業をすることが出来ます」

自らも堆肥を作り、栽培したブルーベリーを使って、地元の方とジャムやジュースを作り販売している平さん。「黒豚は、国内だけではなくアジアでも売れる。そのためには、農・商・工・観として行政が連携した協働共助の「チーム霧島」で取り組むことが大事。このまちは可能性がたくさんある夢の宝庫。これからのいろいろと仕掛けていきたい」と夢を膨らませています。



店内にはたくさんのお肉商品が並び (57)3216



6次産業化／農林水産業の1次産業と加工などの2次産業、流通・販売などの3次産業を融合・連携させ、地域資源を利活用し、新たな付加価値を生み出すことで、地域ビジネスや新産業を創出することを「1次×2次×3次」で6次産業化という。

☎九州農政局経営・事業支援部事業戦略課 ☎096(211)9319 <http://www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/6jika.html>

農林水産業の新たな可能性として注目されているのが「6次産業化」です。生産だけではなく加工から販売までを生産者が手がける産業のことをいい、新しいビジネスの創出により、所得や雇用が増え、地域活性化につながると期待されています。

昨年3月には「六次産業化法」が施行され、さまざまな取り組みが進められています。

6次産業化プランナーに聞く

農林水産省から認定され、6次産業化をサポートするために活動しているのが「6次産業化プランナー」です。

南さつま市坊津町の渡辺千佳子さんもその一人。農林水産物を使った商品

農業と子どもはみんな育てていくもの。チャレンジ農業。その精神がまちを元気にしていきます。

農林水産業の新たな形

6次産業化

学べばいい。そこから商品が生まれます。私が開発したくわ茶の原料となる大麦若葉の生産依頼がありました。量が足りませんでした。そのことをある会で話したら、賛同してくれる人がいて、一緒に生産を始めました。点と点が結びつくことで線となり、面となり、立体となります。そこから知恵と量が生まれ、ビジネスが生まれます。そのためには、さまざまな業種が交流できる場を増やすことが大切です。

ヘンタ製茶の邊田さんは、商談会などに積極的に参加することで、販売のノウハウを学んでいます。色んな業種が集まることでビジネスの可能性は高まります。渡辺さんは、霧島市の農業ビジネスの可能性を強く感じています。

「霧島市には、山と海のミネラルを豊富に含んだおいしい食材がたくさんあります。それにさまざまな職種があり、なんとと言っても国際空港があるなどの立地条件もいい。それを生かすためには、個々で活動するのではなく、農家や企業、行政などが連携することが必要です。6次産業化は一つの成功例があるところではうまくいくと思いません。ロイヤルポークさんのように、農・商・工・観まで連携して成功した例があるのだから、霧島の農業ビジネスは大きな可能性があり、地域活性化にもつながると思います」

開発のコンサルタント業務などをして「マダム・ボー研究所」の代表を務め、これまで特産品コンクールなどで数々の賞を受賞し、平成17年には食品開発で優れたものに贈られる「安藤百福賞」の特別奨励賞を受賞しました。

そんな渡辺さんに、これからの農業について聞きました。

「今の農業は、あまり量は作れなくても何かにこだわりたいいわゆるブランド化と広い田畑で大量生産する大規模化の二極化になりつつあります。中間の農家は高齢化や担い手不足が進み、農地を存続することすら難しい状態です。大規模農家との連携や集落営農、何かにこだわった独自性のある農業を見つけることが必要です。今、農業は転換期を迎えていると思います」

農業を守るためには新たな形が必要。6次産業化はその一つだと言います。

「私が起業するきっかけになったのがニンジンで作ったお茶。キャラティー」です。地元農家に農業体験に行ったときに、規格外のニンジンが捨てられているのを見て、何かに使えないかと思いつき、試行錯誤して商品化しました。それまで捨てられていたものが、少し手を加えるだけでお金になる。6次産業化は少しのアイデアで大きな可能性を生みます」

可能性が広がる6次産業化。しかし、どうすれば売れる商品を作ることができるのでしょうか。

「商品開発に重要なのが軸を決めることです。ほかにはないものを目指す人がいますが、珍しいだけを追求してしまうことがあります。良さは何なのか、ターゲットは誰なのかを決めて、おいしいものを作ることが大切。商品は、こんなものがあればいいの」が売れます。手付かず、気が付かずの部分に目を向ける。そのためには客観的にものを見ることが必要です」

さらに渡辺さんは、興味深い指摘をします。

「知識と経験から知恵が生まれます。素材の知識は知っていても加工、販売の経験がなければ、知っている人から



人員削減、就職難、企業撤退…。農業は冷え込んだ地域経済の起爆剤になる可能性を秘めています。

今、霧島の農業を守るために頑張っている若者たちがいます。自分たちの田畑は自分たちで守ろうとしている集落があります。「霧島」を日本、そしてアジアに売り込もうと奮闘している人たちがいます。「チャレンジ農業」。

その精神がこのまちを元気にしようとしています。

渡辺さんは「農業と子どもはみんな育てていくもの」と言います。農業関係者以外にもできることはあります。地域の食文化を学ぶ、普段の買い物で霧島産の野菜を買う…。

みんなで農業を応援しませんか。そこからまた新たなチャレンジが始まり、このまちの元気が生まれます。

霧島の農業の未来を考える The Challenge 農業

渡辺千佳子さん(60)

岡山県岡山市出身。平成10年南さつま市坊津町に移住。農業体験を通じ加工販売を研究。平成12年にはニンジン加工品の「キャロティー」が県特産品コンクールで奨励賞受賞、平成13年(有)マダム・ボーを起業。特産品コンクールで数々の賞を受賞し、平成15年には全国女性企業家大賞、平成17年には安藤百福賞特別奨励賞を受賞。現在は農家や直売所に商品開発をアドバイス、手がけた商品は売り上げアップにつながっている。

不活化ポリオワクチン 定期接種開始

経口投与から注射へ

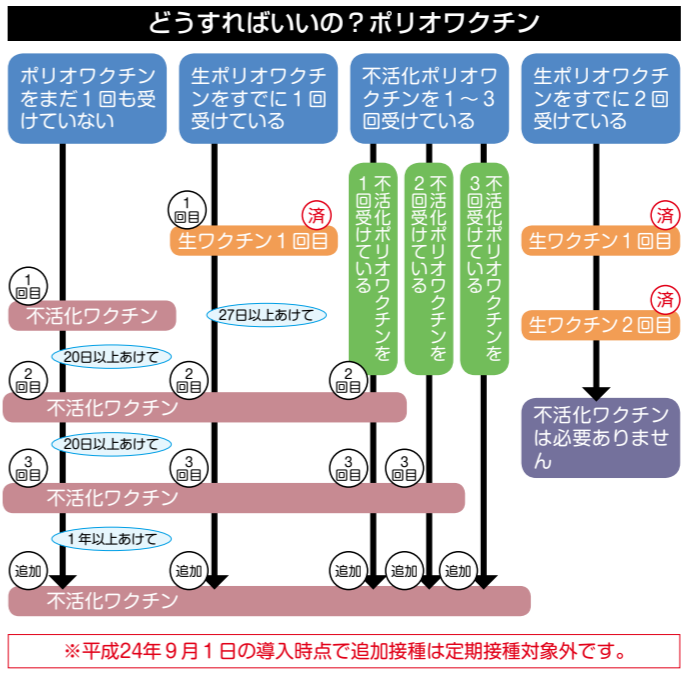
不活化ポリオワクチンの予防接種を10月1日から開始しました。

ポリオワクチン予防接種は、これまで保健センターでの集団接種で生ワクチンを口から投与してまいりました。生ワクチンの場合は、家族への2次感染の危険性が指摘されていましたが、不活化ワクチンになることで、その危険性は無くなりました。

今回、9月1日に予防接種に関する法が改正されたことを受け、市でも不活化ワクチンを使用した注射の接種を医療機関で個別に実施します。日程は次のとおりです。

- 日時 10月1日～平成25年3月31日
- 対象者 11接種日当日午後3時～7時 7歳6か月未満児

●予診票 平成23年1月1日から平成24年6月30日までに生まれたお子さんには、詳細について個別通知します。それ以前に生まれたお子さんの場合は、母子健康手帳持参のうえ、健康増進課か最寄りの総合支所窓口までお越しください。なお発行曜日が決まっていますので問い合わせください。



- 接種内容 11霧島市内委託医療機関での個別接種
- 接種料金 11無料
- 接種回数 11それぞれ20日以上あけて3回接種後、1年後に追加接種の計4回実施。

【留意事項】

- すでに個人で輸入ワクチンを接種された場合は、今回の回数に含まれません。
- 生ワクチン投与分も1回分と数えます。
- 現在のところ、追加接種は国の承認前のため、定期接種対象外です。

◎ 問 健康増進課 ☎(64)0905

ポリオは、急性灰白髄炎（小児まひ）と呼ばれ、感染者の排泄物中のウイルスが口から体内に入り感染する病気です。感染すると1,000人中5～10人は発熱、頭痛、嘔吐など風邪に似た症状が現れ、ひどい場合は、まひの症状が表れることもあります。このまひの発生率は、感染した人1,000～2,000人に1人の割合です。日本でも30年前まで流行を繰り返していましたが、予防接種の効果で現在は国内での自然感染は報告されていません。しかし現在でも東南アジアなどではポリオが常在しており、旅行者や帰国者がウイルスを日本に持ち込む可能性があるため、免疫をつけておく必要があります。

鹿児島空港開港40周年を記念して、鹿児島県の観光情報や特産品をPRするコーナーを鹿児島空港ビルディング株式会社鹿児島空港の1階に設置して、10月1日にオープニングセレモニーが行われました。



PRブース内の様子

開港40周年を記念して 霧島PRブース オープン

空の玄関でおもてなし

霧島市ならではの、おもてなしと特産品のPRとして、霧島茶と関平鉱泉水の試飲コーナーや、利用者が自由にインターネットで市内や県内の観光情報を検索ができる、60インチのタッチパネル式テレビ「霧島タッチガイド」も設置されています。

用して東京から観光に訪れた新倉中奈さん（26）は「初めて霧島市に来ました。PRブースは、霧島のいい宣伝になると思います。試飲した霧島茶がおいしかったので土産に買って帰ります」と話していました。

● 鹿児島空港は年間約500万人の航空機乗降客に加え、送迎者なども多数いることから、霧島市独自のPRブース設置により、県内外の方々に旬の情報や霧島ならではの魅力を広く情報発信することができます。

● 運営時間 11午前6時30分～午後9時30分

● スタッフによる情報提供時間 11午前9時～午後6時（年中無休）

◎ 問 観光課 ☎(64)0895

Zoom up Kirishima



各関係機関で連携を確認

「救急の日」に合わせて9月9日、始良郡医師会主催のもと交通事故による多数傷病者事故を想定した、集団災害事故想定訓練が市消防局敷地内で行われました。軽乗用車と普通乗用車が衝突し、歩道に乗り上げた自動車が20人をはね、運転手が車内に閉じ込められている想定で、始良保健所や市消防局などの9団体が連携して対応を確認しました。始良郡医師会の八木幸夫会長は「今日は各関係機関が連携して貴重な訓練をすることができました。自然災害などが発生した場合は、手を取り合い尊い命を救いたいです」と話していました。

高齢者に対して長寿を祝福し敬老の意を表すため長寿祝金を支給しました。市内の対象者（88歳、95歳、100歳以上）は863人。100歳以上の方は市内に105人おり、最高齢者は106歳です。その中から年度内に100歳になる8人の方に対して9月19日、21日に前田終止市長が、お祝い状と祝い金を手渡しました。国分重久の山下スミアさん（100）は「家の周りに木の葉が落ちているので毎日拾うのが日課です。近所の人もよく遊びに来てくれるので、いろいろな話をします。これが長生きの秘訣です」とうれしそうに話していました。

長寿を祝福し祝金支給

高齢者に対して長寿を祝福し敬老の意を表すため長寿祝金を支給しました。市内の対象者（88歳、95歳、100歳以上）は863人。100歳以上の方は市内に105人おり、最高齢者は106歳です。その中から年度内に100歳になる8人の方に対して9月19日、21日に前田終止市長が、お祝い状と祝い金を手渡しました。国分重久の山下スミアさん（100）は「家の周りに木の葉が落ちているので毎日拾うのが日課です。近所の人もよく遊びに来てくれるので、いろいろな話をします。これが長生きの秘訣です」とうれしそうに話していました。



音と光で魅了した花火大会

霧島市花火大会が9月22日、国分キャンプ海水浴場でありました。霧島錦江湾国立公園誕生と鹿児島空港開港40周年を記念して行われた花火大会。日本と中国の1万発の多種多様な新作花火が、懐かしのヒット曲などに合わせて打ち上げられ、約1万人の観客を魅了しました。天降川小学校4年生の朝倉海稀君は「初めて見にきました。ハート形の花火や色鮮やかな花火が打ち上げられ、とてもきれいで感動しました。たくさんの花火大会を見に行きましたが、霧島市が一番きれいで、いい思い出になりました」と話してくれました。



お客さまと火山の恵みに感謝

「ありがとう霧島！感謝フェス！」が9月8日、9日に牧園町のまほろばの里でありました。1日目は市内外から約500人が参加してフラダンスを披露。2日目は地元ミュージシャンの演奏などがありました。2回目の今回は霧島の観光を支えてくれたお客さまや自然に感謝しようという目的で実施されました。泊まりがけで宮崎県から参加した60代の女性は「少しでも霧島がにぎわってくれればと思い参加しました。野外で踊るのは気持ちがいいしロケーションも最高です。来年も来ます」と話してくれました。



「ありがとう霧島！感謝フェス！」が9月8日、9日に牧園町のまほろばの里でありました。1日目は市内外から約500人が参加してフラダンスを披露。2日目は地元ミュージシャンの演奏などがありました。2回目の今回は霧島の観光を支えてくれたお客さまや自然に感謝しようという目的で実施されました。泊まりがけで宮崎県から参加した60代の女性は「少しでも霧島がにぎわってくれればと思い参加しました。野外で踊るのは気持ちがいいしロケーションも最高です。来年も来ます」と話してくれました。

元気きりしまっ子

持松大運動会

多くの人の支えに感謝 小規模校の大運動会

250人との交流が教えてくれたこと



他校の児童や大学生も一緒に全力プレー

楽 しかった夏休みが終わり、少しづつ秋の気配を感じる季節、市内の小中学校では運動会が行われました。短距離走やリレー、マスメージム、応援合戦など練習の成果を発揮する、子どもたちにとっての一大イベントです。牧園町の持松小学校でも9月22日、「持松大運動会」がありました。

地域と人に感謝

持松小学校は全校児童11人の小さな学校です。児童数が減少してきたため、3年前から運動会に他校の児童の参加を呼び掛けるようになりました。4回目の今年は牧園町の学校はもちろん、国分や霧島からも児童が集まり、42人の応援児童が参加しました。日頃から交流のある鹿児島国際大学の学生27人もスタッフとして参加、地域の方も大勢訪れ、総勢約250人、小規模校とは思えない

ほどの盛り上がりを見せました。

同校の肥後雅孝校長は「この特色ある運動会を通して、地域の方や学生などさまざまな人たちに見守られていることに気付き、感謝の気持ちを忘れないでほしいです。小さな学校でのびのびと育っている子どもたちですが、応援参加児童との交流を深め、視野を広げ、より豊かな心を育む機会にしてほしい」と話していました。当日参加した国分西小学校5年の鮫島彩花さんは「いとこが持松小学校にいたので、2年前から運動会に参加しています。みんなが楽しそうにしているので、私も参加するのをいつも楽しみにしています。今では、友達もできました」と楽しそうに話していました。

「たくさんの人たちに支えられている」。運動会は、それに気付く良い機会です。感謝の気持ちを胸に、持松の子どもたちはまた一歩成長します。



◎持松小学校 6年
上江洲 大輔君

2年前、持松小学校に転校してきました。前の学校は全校児童が約350人でしたが、持松小は11人。少し寂しさを感じましたが、地域の方がいろいろな行事に参加して盛り上げてくださるので、楽しく学校生活を送ることができます。特に運動会は、地域の方だけではなく、大学生やほかの学校の人も参加してくれるので一番盛り上がりです。僕にとって今回が小学校最後の運動会。皆さんのおかげで最高の記念になりました。これから人とのつながりを大切にして、学校を元気にしていきたいです。

新刊紹介

トリガール!

中村航 作
限界なんて関係ない。鳥人間コンテストに夢をかける学生たちを描く、空飛ぶ青春部活小説。



もらい泣き

沖方丁 作
やるせない気持ちと和解するために。沖方丁が贈る、心の処方箋。実話を元に創作したショートストーリー＆エッセイ33編を収録。



わくわく!びっくり!かんたん手づくり絵本

木村研 作
あてこ絵本、変身絵本、窓つき絵本、迷路絵本...季節や行事に合わせて楽しめる、かんたん手づくり絵本50アイテムを紹介。



おはけのおうち いきませんか?

せきゆうこ 作
おんぼろ屋敷を売って、新しい家を買おうとするおはけたちがいました。嘘八百を並べたチラシを作り、ぼろ屋敷を立派な屋敷に仕立てあげたおはけたちのもとに、家を見せてもらいたいという人がやってきたのですが...



図書館へ行こう

<http://www.lib-kirishima.jp/>

- 佐渡の三人／長嶋有
- 幸いは降る星のごとく／橋本治
- アスクレピオスの愛人／林真理子
- 犬とハモニカ／江國香織
- アルカトラズ幻想／島田荘司
- ヒートアップ／中山七里
- 彼女の時効／新津きよみ
- さようなら、猫／井上荒野
- 殺殺人事件／内田康夫
- 生きるぼくら／原田マハ
- 台所道具の本／主婦の友社
- 川のぼうけん／ジェラルド・ローズ
- K町の奇妙なおとなたち／斉藤洋
- めがねをかけたなら／くすのきしげのり
- あるいてます／みやにしたつや
- コヨーテのおはなし／リー・ペック

イベント案内

えほんとわらべうたの会

- 日時=11月8日(木)、15日(木)、22日(木)
- 午前10時30分～11時30分
- 場所=隼人農村環境改善センター会議室
- 対象=親子(2、3歳児対象)20組
- 講師=細川真弓先生
- ※申し込みが必要です。
- ◎目・問=隼人図書館 ☎(43)7574

国分図書館読書まつり

- 日時=11月11日(日)午前10時～午後3時
- 場所=国分図書館、メディアセンター
- 内容=おはなし会、本のリサイクル市、映画ほか
- ◎問=国分図書館 ☎(64)0918

霧島市立図書館においでください。

霧島市7か所の図書館(室)で本が借りられます。

- 国分図書館 / ☎64-0918
- 隼人図書館 / ☎43-7574
- 溝辺図書室 / ☎58-3191
- 横川図書室 / ☎72-1596
- 牧園図書室 / ☎78-3349
- 霧島図書室 / ☎57-0316
- 福山図書室 / ☎56-2026

イベント名()内は主催団体です	日時 [対象]	場所/問い合わせ先
幼児と小学生のためのおはなしの部屋(りんごの木)	11月 3日(土) 10:30～11:30	国分図書館
赤ちゃんとわらべうた・えほんのへや(りんごの木)	11月 5日(月) 10:30～11:00	
ほととの森おはなし会	10月27日(土)、11月24日(土) 14:00～14:30	
おはなしの部屋	10月21日(日)11:00～11:30 [幼児・小学生] 11月 1日(木)16:00～16:30 [幼児] 11月 2日(金)11:00～11:30 [赤ちゃん]	隼人図書館
語りの部屋(語りの会あもり)	11月11日(日) 11:00～11:40	横川図書室
おはなし会(おはなしの会「さんぽ道」)	10月20日(土) 14:00～15:00	
お話の時間(紙ふうせん)	10月15日(月) 15:30～16:30	
おはなし広場(ふくの子おはなし会)	10月27日(土) 10:00～11:30	

※国分図書館のイベントは健康マイレージ対象事業です。

環霧島会議とは、霧島山を取り巻く鹿児島・宮崎両県の5市2町で構成され、県境を越えて連携し地域活性化を図ります。

目指せ！世界ジオパーク認定



永山成子さん

永山成子さん（曾於市立財部北小学校勤務）は、ゴッ

ゴッタンは南九州に古くから伝わる楽器で、板三味線や箱三味線とも呼ばれています。かつては、「持たんもんのゴッタン」といわれ、たいていの農家にありました。その素朴かつ繊細な音色は、厳しい生活の中でのやさやかな楽しみとして親しまれていました。

ゴッタンといえば、財部町の故・荒武タミさん（霧島市福山町出身）が有名です。荒武さんの国立劇場での演奏などの活躍で、衰退していたゴッタンに再び注目が集まるようになり、その魂を取り戻していききました。その音色は今でも、ゴッタンの里・財部に受け継がれています。

環霧島探訪
—かんきりしまたんぼう—

霧島山麓に響く
ゴッタンの音色

（曾於市財部町）

絶やさぬようにさまざまな方面で尽力されています。

ゴッタンとの出会いは、財部北小学校への赴任がきっかけでした。平成20年、学校創立百周年記念式典で児童がゴッタンを披露することになり、三味線の経験がある永山さんが指導にあたりました。その後、財部北小学校のゴッタンは各種イベントへ活動の場を広げていきます。

荒武タミさんの死後、一時下火となっていたゴッタンは、次第に息を吹き返します。

現在では、永山さんの呼びかけで「ふるさとを思いやる会ゴッタン倶楽部」が設立され、市内外で美しい音色を響かせています。その願いは「ゴッタン倶楽部が地域に根ざした活動をし、ゴッタンの音色が次の世代へ受け継がれていく」ことです。

ゴッタンの魅力は「いつでも練習できる手軽なものでありながら、本物の音がでる」ことだと話します。今後の目標は「地元の木を使用したゴッタン製作に関わり、その魅力を全国発信することです」と力強く語ってくれました。

思い出の味を募集しています。住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、あなたの心に残る、食べたならなぜか元気になる味をエピソードとともにお寄せください。採用された方には後日連絡の上、取材させていただきます。

（宛先）〒899-4394 国分中央三丁目45番1号 秘書広報課「思い出の味」係

思い出の味
なぜか元気になる
Taste of memories



Recipe (レシピ)

◎お弁当にぴったり「から揚げ」

【材料】鶏もも肉1枚、しょうゆ(小さじ1)、酒(小さじ1)、塩(少々)、こしょう(少々)、かたくり粉(適量)

【作り方】①鶏もも肉を一口大に切り、塩、こしょう、しょうゆ、酒を加えてよくもみ、下味をつける。
※お好みで、ニンニクやショウガを入れてもおいしい。お弁当に入れるとき匂いが気になるという方は控えめに。
②①を一晩おき、よく味がしみ込んだところで、かたくり粉をまぶし、油で揚げる。

国分中央高校生活文化科3年の網美奈さんは「お弁当の時間が一番楽しみ」と笑います。共働きの家庭が増え、手軽に美味しいものが買える環境も手伝って、昼食にコンビニ弁当やスーパーの総菜などを買うのが、美奈さんが持っているのは、母久美子さん手作りのお弁当です。平日はもちろん、今年の8月まで野球部のマネージャーをしていた美奈さんは、土日もお弁当が必要でした。毎朝5時すぎに起きてお弁当を作る久美子さんですが、「大変だと思ったことはありません。たまには手抜きもしつつ、栄養のあるものを食べて元気に育ってもらえたら」とほほ笑みます。

9月8日の体育祭、美奈さんのお弁当には大好きなから揚げといなりずしが入っていました。「母はいつも料理で私たち家族を応援してくれます。試合の前日は勝つようにと豚カツを作ってくれたし、サッカーをしている弟が試合で頑張った日は弟の好物を作ってくれます。父と姉と私のお弁当を毎日作ってくれますが、冷凍食品が苦手な

小さなお弁当箱に詰めた大きな愛



◎国分郡田 網久美子さん(43)・美奈さん(18)

父のためにも、ほとんど手作り。今日の体育祭もお弁当を食べて頑張ろうって元気が出ました」部活を引退してから、家で料理の手伝いをするのが増えたという美奈さん。「母に料理を教わると、改めて感謝の気持ちが湧いてきます。いつか、まだ遠い先の話だけど、私が親になったとき、母のようにいつも笑顔で、家族に元気を届けられる人になりたい」と少し恥ずかしそうに話してくれました。

美奈さんは来年の春、高校を卒業し、社会人になります。お弁当箱いっぱい詰められた、手作り料理とお母さんの愛残さず食べた日々が、新しいステージへ向かう美奈さんの背中を押してくれます。

都城市

島津発祥まつり



・期日=11月9日(金)~11日(日)
・内容=都城島津家ゆかりの史跡探訪や騎馬武者・子ども武者・島津桜姫らによる市中パレード、島津家の家紋をかたどった創作花火など、島津にまつわるさまざまなイベントを開催します。
・パレード日時=11月10日(土)午後1時から
・パレードコース=旧都城市民会館→都城西駅前→
下橋→都城歴史資料館
◎問=島津発祥まつり実行委員会 ☎0986(51)5501

湧水町

湧水町高原フェスタ・彫刻造形展



・日時=11月3日(土)、4日(日)午前10時~午後4時
・場所=栗野岳レクリエーション村
・内容=自然素材などを利用した手作りの芸術造形作品が並ぶ彫刻造形展を開催します。チェーンソーアート大会や栗野岳ウォーキングなど、さまざまな体験コーナーもあります。
◎問=湧水町商工観光課 ☎(74)3111(内線2222)

EVENTS OF KANKIRISHIMA

平成23年電動車いすサッカーワールドカップ出場——塩入新也さん

仲間の思いを胸に

人の風景

THE SCENE
霧島に生きる



マンチェスターユナイテッド
鹿兒島のエンブレム

左

手を使い電動車いすを操る溝辺町麓の塩入新也さん。平成23年フランスで開催された電動車いすサッカーワールドカップに日本代表として出場。サッカーは塩入さんにとって生きる力です。

塩入さんは小児期に発症し難病といわれる病氣、脊髄性筋萎縮症をもつ青年。筋力が衰えて局所的に痩せ、手足などが自由に動かなくなる病氣です。「生まれたときは健康そのものでしたが、歩き始めたころ、よく転んでいたそうです。心配した両親は県内の病院だけではなく県外まで検査してまわ

りその結果、脊髄性筋萎縮症と診断され、7歳からは車いす生活の日々。なぜ自分だけが、こんなつらい思いをしないといけないのかと、親に怒りをぶつけ自暴自棄になるときもありました」

小・中・高校生のときは病院に入院しながら養護学校に通い、自分の状況を受け入れられないまま学校生活を送る毎日。そんな時、塩入さんに衝撃が走ります。面倒見が良く仲の良かった

先輩が、突然病気で亡くなってしまいました。

「先輩は死に直面しながらも、限られた時間を精いっぱい生きていました。私も病氣に対して不安がありました。先輩を見て一度きりの人生なので楽しく生きようと、生きる勇気と希望をもらいました」

先輩の姿に感銘を受けた塩入さんは、日常生活の中で何か生きがいや目標を持ちたいと考え始めます。そこで出会ったのが電動車いすサッカーでした。もともとサッカーが好きな塩入さん

でも障害者にはできないと諦めていた中学2年生のころ、先生から電動車いすサッカーがあると聞き、どのような競技なのかインターネットで調べたりクラブチームに聞いたりして、同じ境遇を持つ人でもできるんだと人生に希望が湧いてきました。

早速、チームを作ろうとチャレンジ。しかし病院や学校の先生は、転倒しけがをするリスクが高いなどの理由で反対。それでも諦めきれず、高校3年生のときに再チャレンジすると、先生たちも熱意に打たれチームを結成することができました。それが、平成15年に自ら立ち上げた「マンチェスターユナイテッド鹿兒島」です。現在、塩入さんは県内各地の同じ境遇を持つ7人の仲間とプレーしています。

◎電動車いすサッカー／足を使わず、電動車いすで行うサッカーのことで、バスケットボールのコートを使用して1チーム4人で編成。自立歩行ができない選手が多く、車いすの手元のコントローラーを手や顎、足で巧みに操ります。ボールの大きさは通常のサッカーボールより1.5倍大きく直径約32センチあります。足元に付けた鉄のフットガードでパスやシュートをしてゴールを狙い、点数を争う競技です。



ミニゲームの様子



スタッフ・ボランティアの方に介助してもらう



車いすのコントローラーを巧みに操る塩入さん

電動車いすサッカーには、選手の身の回りの介助やボール出し、手の不自由な人には給水などしてくれる人が必要で、設立当初は塩入さんたち自ら探していました。現在では頑張っている姿に共感してたくさんの方がさまざまな立場で関わってくれます。

「チームを設立した当時は、私たちが介助してくれる人が来てくれるか不安でしたが、今では10人の方々に、いろんな面でサポートしていただいています。電動車いすサッカーは皆さんの支えがないとできない競技です。親や仲間、そしてサポートしてくれるメンバーなど私の人生に関わってくれた人に感謝しながら、サッカーで恩返ししたいです」

感謝の気持ちを忘れない塩入さんは「今の目標は、また日本代表に選ばれ試合に出ることですが、まずは10月の全国大会優勝。チームの中では亡くなった選手もいるので仲間の思いを胸に、初の全国制覇を目指します。同じ境遇を持ち、悩んでいる方もいると思います。私たちがプレーを見て未来への希望を感じてもらいたいです」と力強く話します。

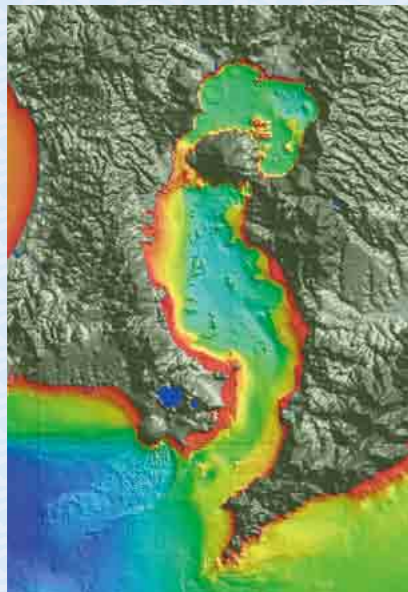
かけがえのない仲間との出会いや経験を通じて、サッカーとともに成長してきた塩入さん。そこにはたくさんの方の支えがありました。

Profile

塩入新也さん (27)

溝辺町麓在住。始良市加治木町の独立行政法人国立病院機構南九州病院に入院しながら、小・中・高校は加治木養護学校で生活を送る。高校卒業後「マンチェスターユナイテッド鹿兒島」を設立し、現在、電動車いすサッカーを仲間とともに楽しみ、10月27日、28日に神奈川県で行われる全国大会に向け励んでいます。

錦江湾の海底地形図



海上保安庁第十管区本部が鹿児島湾の海の深さや海底の地形の様子などを感覚的に理解しやすく表現した図です。

錦江湾の生き物たち

(写真提供：①・②くすのき自然館、③～⑫鹿児島市水族館)



①クツラヘラサギ ②ハクセンシオマネキ ③アオリイカ ④アカオビハナダイ
⑤アカシュモクザメ ⑥クマノミ(幼魚) ⑦コブヒトデモドキ ⑧タコクラゲ
⑨マンボウ ⑩キリンミノ ⑪ミナミハンドウイルカ ⑫カタクチイワシ



カツオ釣りの餌となるカタクチイワシをいけすから積み込むカツオ船(神造島)

豊かな海、錦江湾に暮らす

干潟から深海までの地形をもつ錦江湾。栄養豊富な海は多くの生き物がすみ、人々の暮らしを支えてきました。この海を後世に残していくことが私たちに求められています。

シリーズ最終回は錦江湾に暮らす海の生き物を紹介しながら、海の保全と利用について考えてみましょう。

森には砂漠よりも多くの生き物がいます。海も同じで透明で澄んだ外海よりも、プランクトンが多く、栄養豊富な錦江湾の方が多種多様な生き物がすんでいます。



錦江湾漁業青年部長 隼人町小浜 安木高義さん(62)

鹿児島市水族館が錦江湾を調査したところ、580種類もの魚類が確認されました。体長3センチのハンドウイルカやそれより小さなミナミハンドウイルカは1000頭以上が湾内に入り込むこともあるといわれています。

この海で30年漁師を続けている隼人町小浜の安木高義さんは、「小さいころは父の手伝

いで、夜、漁に出て朝方帰り、そのまま学校へ行ったり、父に叱られた時は船で一晩過ごしたりすることもありました。兄弟3人みんな海が好きで漁師になりました」と話します。安木さんの漁は、一本の縄

モモイロカゲヤハゼと名付けられた新種の魚も水深60メートル付近で見られました。桜島周辺には直径1メートルあ

るサンゴ礁が群生し、魚たちのすみかとなっています。霧島市の海岸に飛来する世界で2000羽しかないクロツラヘラサギと、干潟にすむカニ、ハクセンシオマネキは絶滅危惧種。今年8月に初めて、始良市の重富海岸にアカウミガメが産卵のため上陸しました。錦江湾は生き物たちにとってすみやすい環境なのかもしれません。

多くの釣りを付けて釣る延縄漁。湾奥と薩摩半島南端の山川沖までを漁場としています。以前は湾奥でもタチウオが、一日に1000匹から1500匹釣れていました。それが5、6年ほど前から少なくなり、形も小さくなりました。「釣れなくなったのは延縄漁による取り過ぎのためではないかと思っています。今、タチウオ漁は平日の朝7時前と

日曜・祝日の前日は漁をしないと決め、漁協では毎年、タイやヒラメ、カサゴなどを放流しています」と育てる漁業への取り組みを話します。



南浜市水産 隼人町真孝 岩元保代さん(46)

神造島などが海域公園になったのを機に、新たな試み始めた隼人町真孝の岩元保代さん。隼人港のある浜之市で、父繁明さんの水産会社を手伝っています。主にカツオの餌となるカタクチイワシを取り、カツオ船に販売しています。

アートな旅「極上の体験」に商品を提供。神造島周遊やダイビング、クロツラヘラサギを見るプログラムを計画しました。「静かな海から桜島や神造島、霧島山を見ると心が癒やされます。すてきな海をもっと多くの人に知ってもらい、好きになってほしい」と目を輝かせます。

漁師の数も減り、以前ほど活気がなくなった浜之市。岩元さんは漁業だけでなく、海を観光に生かそうと、10月から始まる体験型観光「霧島

みんなで海を守る 「霧島市天降川等河川環境保全条例」は、天降川をはじめ

めとする河川の水質や景観を将来の世代に引き継ぐために市民と行政、事業者が責任を持って河川の環境保全に協力するという条例です。霧島山に降った雨は、川を伝い、人々の住むまちを通り、錦江湾へと注ぎます。山や川を守ることに海を守ることになり、錦江湾の水質浄化にもつながります。これまでのシリーズで若鼻、神造島、たぎりなどの海域公園や干潟にすむ生き物などを紹介してきました。この美しい霧島錦江湾国立公園に住む私たちに、この自然を守り、生かしていくことが求められているのです。

INTERVIEW

環境省中央環境審議会委員 くすのき自然館専務理事 浜本奈鼓さん(51)



世界的にサンゴや藻場、干潟のある浅い海は開発により急速に減少しています。日本でも約6割が失われてしまいました。浅い海の減少を防ぎ、生物多様性の保全のために錦江湾は全国で初めて海域の国立公園として指定されました。縄文の昔から人々が住み、今も湾奥には80万人が暮らします。朝日が昇り、夕日が沈む時の黄金色に輝く美しい海を縄文・弥生時代の先人たちが私たちと同じように眺めていました。まさしく、錦江湾が人々の生活のベースになっていたのです。この美しい海を守っていくためには適正な利用が求められます。漁をしたり、レクリエーションをしたりするなど人々が海と接すること。錦江湾に注ぐ内陸の農業用水や上下水道、河川の水を汚さないこと。国立公園は国民の財産です。国だけではなく、国民、特に地域住民が守り、後世に伝えていかなければなりません。世界有数のカルデラによってできた錦江湾。霧島や指宿・佐多地区を合わせたブランド力は大きな可能性を秘めています。

霧島アートな旅

創る・観る・聴く・触れる・感じる・味わう

極上の体験

参加者募集



霧島アートな旅・極上の体験

霧島九面太鼓の演奏体験や新燃岳を展望できるガイド付霧島山トレッキング、錦江湾をクルージングする「神造島周遊クルージング」など、50の体験プログラムをご用意しました。秋の霧島で極上の体験を堪能してみませんか。

- 期間=10月1日(月)～12月31日(月)
- 場所=霧島市内各地



※詳細は、公式ホームページをご覧ください。
<http://kirishima-taiken.com>

☎ 099(222)3388

E vent

◎イベント情報

世界認定 島原半島ジオパークを訪ねる

観光姉妹 雲仙市について

交流ツアー募集

雲仙市と霧島市は、日本で最初に国立公園に指定されたまちとして、昭和44年9月18日に長崎県旧小浜町と鹿児島県旧牧園町、旧霧島町の3町の間で観光姉妹都市盟約が締結され、現在も観光交流が続いています。共に、雲仙普賢岳や新燃岳などの活火山を有する地、ジオパーク認定の地であり、新燃岳の噴火の際は、雲仙市の皆さまからいち早くご支援をいただきました。今回、市民の皆さまがお互いのまちを知る観光交流事業として「姉妹都市交流ツアー」を企画しました。主要な観光地をはじめ、雲仙市産業まつりを楽しむバスツアーです。皆さんぜひご参加ください。

- 期日 12月1日(土)、12月2日(日)
- 定員 1先着30人(霧島市民)
- 参加料 (1人当たり)
 - ・ 9800円(4名1室)
 - ・ 1万8500円(3名1室)
 - ・ 1万1900円(2名1室)
- ※参加料には宿泊費、食事代(朝食2回、夜)、入館料を含む。
- 申込期限 10月31日(水)
- 申込方法 ㈱霧島観光社 ☎ 099(222)3388へ申し込む。



◎コース

期日	時間	観光施設など
12/1 (土)	8:00	霧島市役所国分庁舎発(集合7:45)
	12:20	道の駅・みずなし本陣(昼食)
	13:10	土石流被災家屋保存公園
	13:50	雲仙岳災害記念館
	15:00	島原城
	16:10	鍋島邸・神代小路
12/2 (日)	8:05	雲仙地獄めぐり
	9:10	ほっとふっと105(小浜温泉足湯)
	10:30	第6回雲仙市産業まつり
	12:20	そば幸・国見店(昼食)
	12:20	そば幸・国見店(昼食)
	17:00	霧島市役所国分庁舎 着

Landscape ordinance

◎景観条例

霧島市景観条例が制定されました

長い年月の中で地域の自然歴史、文化などとともに育まれてきた本市の多様な景観を、市民共通の大切な資産として適切に次世代に継承するとともに、より一層魅力的で活力のある「霧島市ならではのまちづくりを推進するため、景観法に基づき「霧島市景観条例」の制定および「霧島市景観計画」の策定を行いました。

景観計画とは、景観法に基づき、本市の景観形成に関する基本方針や景観形成のための行為の制限などについて定める計画です。市の全域を景観法の適用対象となる「景観計画区域」と位置付け、霧島錦江湾国立公園をはじめとする美しい自然景観や豊かな田園景観、自然と調和した市街地景観など、本市の特性を活かした良好な景観の保全や、新たな景観形成に向けた取り組みを進めます。

景観法および景観条例に基づく届出制度が始まります。平成25年4月1日から景観へ大きな影響を与えるような一定規模以上の行為を行うおとす場合は、景観法および景観条例の規定に基づき、事前に市への届け出が必要になります。該当する行為の計画がある場合は、ほかの法令による認可・許可などに先立ち、早めに都市計画課へご相談ください。

届け出が必要となる行為と規模

行為の種類	届出対象規模
① 建築物の新築、増改築、移転、外観の変更など。	高さ12m超もしくは地上4階以上、または延べ面積1,000平方m超のもの。
② 工作物の新設、増改築、移転、外観の変更など。	高さ10m超のもの。
③ 開発行為、土地の開墾など。	行為に係る土地の面積の合計が1,000平方m以上のもの。
④ 土石の採取、木竹の伐採、屋外における物件の堆積など。	行為に係る土地の面積の合計が500平方m以上のもの。
⑤ 外観照明の新設・改設など。	①・②の外観に設置する照明。

市民の皆さまが撮影した本市の「日頃から美しいと感じている景観」、「未来に伝えたい景観」などの写真を展示します。皆さまお薦めの本市の景観をぜひご覧ください。

● 期間 10月21日(日)～26日(金)

● 場所 国分シビックセンター1階エントランスホール

◎ 都市計画課都市計画第2グループ ☎ (64)0908

H health

◎健康情報

生きるを支える心の健康づくり講演会

誰にでも心が苦しいときがあります。身近な人が悩んでいたなら、死にたいと打ち明けられたら、あなたならどうしますか。死にたいと思うほど苦しい気持ちや背景には何があるのか、一緒に考えてみませんか。

● 日時 11月4日(日)午後1時20分開演

● 場所 国分シビックセンター1・2階多目的ホール



イラスト：細川貂々
「ツレがうつになりまして。」著者

- 講演 II 「こころと命を考える」死にたいとうちあけられたら」
- 講師 II 末松渉さん(東京大学の電話顧問・清泉女子大学非常勤講師)
- 申込方法 II 電話で健康増進課に申し込む。
- 申込期限 II 10月31日(水)

10月の健康月間

骨髄バンク推進普及月間
骨髄バンクとは、骨髄移植に必要な骨髄を提供してくれる方をあらかじめ登録しておくことです。骨髄移植は、白血病などの治りにくい血液の病気に対する有効な治療法です。骨髄移植に関する正しい知識を身に付け、骨髄提供希望者として登録しましょう。

臓器移植普及推進月間
臓器不全に苦しむ患者にとって臓器移植は、根治治療

となります。「臓器の移植に関する法律」により、本人の意思、または、脳死の状態において心臓が停止した死後で本人の意思が不明な場合でも、家族の承諾が得られれば臓器提供ができます。県内各地で臓器移植普及推進キャンペーンが実施され、臓器提供意思表示カードの配布などが行われます。この機会に臓器移植に関する正しい知識と理解を深めてはいかがでしょうか。

◎ 健康増進課 ☎ (64)0905

特定C型肝炎ウイルス感染者への給付金について

出産や手術における大量出血の際に、特定の血液製剤を投与されたことよってC型肝炎ウイルスに感染された方が、給付金を支給する仕組みがあります。詳しくはお問い合わせください。

◎ 厚生労働省ホームページまたは相談窓口 ☎ 120(509)002(平日午前9時30分～午後6時)



市からのお知らせや募集などの情報をお届けします。

詳細な情報は掲載されている問い合わせ先に、ご連絡ください。

※問=問い合わせ先 目=申し込み先
※健マ=「健康マイレージ」対象の事業

お知らせ

保有地を売却します

市土地開発公社が保有している、隼人ガーデンシティ用地の売却を予定しています。詳しくは国分庁舎・隼人庁舎・各総合支所の掲示板か市ホームページをご覧ください。

- 所在地=隼人町小浜上^{かみかいたに}4163番 外48筆
 - 地積/地目=203,868平方^坪/山林・原野
 - 公募の方法=プロポーザル方式
 - 応募資格=土地開発公社が別に定める条件を満たす法人
 - 申込期限=12月28日(金)
- 問=土地開発公社 ☎(42) 2023

税金などを納付できる場所が増えます

新たに次の金融機関が霧島市収納代理金融機関に指定され、税金、保育料、住宅使用料などの納付ができるようになります。

- 金融機関の名称=株式会社宮崎銀行国分支店
 - 住所=国分野口東6番3号
 - 開始日=10月29日(月)から
- 問=会計課 ☎(64)0913

市道の穴ぼこなどの情報提供

市では、車輛や歩行者の安全な通行を確保するため、市道の維持管理について、日々努めているところです。

市道に穴ぼこなどを発見された場合は、速やかに情報をお寄せください。

問=建設施設管理課道路維持グループ ☎(64)0865

生け垣や雑草などの管理を適切に

民地の生け垣や雑草などが、道路や歩道にはみ出し、車輛や歩行者通行の支障になることがあります。道路にはみ出した生垣や雑草などは、剪定や除草(せんてい)をするなど適切な管理をお願いします。

問=建設施設管理課道路維持グループ ☎(64)0865

霧島市芸術祭・文化祭

市文化協会主催の霧島市芸術祭(展示部門のみ)と各支部文化祭が各地区で開催されます。11月は「文化芸術

に親しむ月間」です。各地区の催し物をお楽しみください。

■第7回霧島市芸術祭

- 展示期日=11月8日(木) 午後1時30分～14日(水) 午後3時
- 展示場所=国分シビックセンター1階市民ギャラリー

■各支部文化祭

行事名	展示部門	舞台発表	連絡先
牧園支部文化祭	10月21日(日) 11:00～15:30 霧島国際音楽ホール (みやまコンセル)	10月21日(日) 12:50～16:00 霧島国際音楽ホール (みやまコンセル)	☎(76)2714 教育振興課
福山支部文化祭	10月21日(日) 12:00～15:00 福山公民館	10月21日(日) 10:00～15:00 福山公民館	☎(56)2026 教育振興課
霧島文化祭	10月27日(土)9:00～ 28日(日)15:30 霧島公民館	10月28日(日) 10:00～15:00 霧島公民館	☎(57)0316 霧島公民館
国分支部文化祭	10月31日(水)12:00～ 11月3日(土)16:00 国分シビックセンター 市民ギャラリー・ 多目的ホール	11月3日(土) 10:00～16:00 霧島市民会館	☎(42)1119 文化振興課
横川支部文化祭	11月3日(土) 9:00～16:00 横川公民館	11月3日(土) 9:30～12:30 横川公民館	☎(72)1596 教育振興課
満辺ふるさと祭り (満辺支部文化祭)	11月3日(土)13:00～ 11月4日(日)16:00 満辺公民館(みそめ館)	11月4日(日) 10:00～15:00 満辺公民館(みそめ館)	☎(58)3191 教育振興課
隼人支部文化祭	11月4日(日) 9:00～16:00 隼人体育館	11月4日(日) 10:00～15:00 隼人農村環境 改善センター	☎(42)1119 文化振興課

問=文化振興課 ☎(42)1119、各出張所教育振興課

人権フェスティバル2012 ～子どもの夢が繋がる明日のために～

NPO法人「人権を守る会かごしま」主催の講演会を開催します。子どもとの向き合い方を「子どもの権利条約」にてらして一緒に考えてみませんか。

- 日時=10月27日(土) 午後1時30分から
- 場所=国分シビックセンター2階多目的ホール
- 講師=山下雅彦さん(九州東海大学教授)

問=人権を守る会かごしま理事長【加来宗暁】
☎090(2711)1800

労働セミナー

県では、労働問題や制度に関する理解を深め、働きやすい職場環境をつくるための労働セミナーを開催します。受講料は無料です。

- 日時=11月5日(月) 午後1時30分～4時20分
- 場所=始良保健所大会議室(隼人町松永3320-16)
- 講師=亀田孝太郎さん(社会保険労務士)
- テーマ=働く人の知っておきたい労働条件基礎知識
- 定員=70人程度(先着順)
- 申込方法=県のホームページから受講申し込み書をダウンロードし、ファクスまたはメールで申し込む。

問=県庁雇用労政課労政係 ☎099(286)3017、
FAX 099(286)5582、メール r-rousei@pref.

kagoshima.lg.jp

募 集

ファミリー・サポート・センター会員募集

ファミリー・サポート・センターとは、育児の援助をしてほしい方(依頼会員)と、援助をしたい方(提供会員)を結び、その援助活動を有償のボランティアで行う会員組織です。

- 依頼会員=市内に居住または勤務する方で、生後3か月以上から小学校までのお子さんをお持ちの方。
- 提供会員=市内に居住する20歳以上の心身ともに健康な方で、自宅で子どもを預かることができる方。(資格不要)

※提供会員の活動に対しては基準額による報酬あり。会員になるには同センターが実施する講習会の受講が必要です。受講希望の方は電話で申し込みください。

- 全体講習会=11月14日(水)

問・目=キッズパークきりしま(ファミリー・サポート・センター霧島) ☎(48)6886

市営住宅の入居者募集

国分・隼人地区の市営住宅(9月30日までに入居準備のできた部屋)の入居者を募集します。希望の方は申し込みください。申し込みは団地ごとに受け付け(1世帯1団地に限る)、申し込み多数の場合は抽選となります。

- 申込書の配布・受付期間=10月15日(月)～26日(金)
- 抽選日=11月7日(水)

※申し込みについては所得制限などの条件があります。※部屋の詳細は市ホームページをご覧になるか、問い合わせください。

※国分地区の名波ハイタウン4・7・8・9棟、霧島地区の梅之木団地、牧園地区の高千穂団地の入居者は随時募集しています。希望の方は申し込みください。

問=建築住宅課住宅グループ ☎(64)0909、梅之木団地については霧島総合支所産業建設課 ☎(45)5111(内線5732)、高千穂団地については牧園総合支所産業建設課 ☎(76)2717

上級救命講習会受講者を募集

市民の救命率向上を目的とし、心肺蘇生法、AEDの取り扱い、三角きんを用いた応急手当法や患者搬送などを学習します。

- 日時=11月17日(土) 午前8時30分～午後5時30分
- 場所=消防局消防本部3階会議室
- 対象=市内在住または通勤・通学している中学生以上の方。
- 定員=30人(定員になり次第締め切ります)
- 受講料=無料(テキスト代が2,500円程度必要)
- 申込方法=電話で。
- 申込期限=11月5日(月)

問・目=消防局警防課救急救助係 ☎(64)0432

中国語&英語de読み聞かせ

中国とアメリカ出身の国際交流員2人が母国語で絵本などの読み聞かせをします。

- 日時=11月6日(火) 午前10時30分～11時
- 場所=国分公民館4階和室
- 対象=未就学児とその保護者
- 定員=10組(申込多数の場合は抽選、少数の場合は中止になることがあります)
- 申込期限=10月30日(火)

問・目=企画政策課国際交流グループ ☎(64) 0914

中国語教室(標準語)

中国出身の国際交流員と一緒に簡単な中国語や中国文化を学びませんか。

- 日時=10月25日(木) 午後6時30分～8時
- 場所=国分公民館3階小会議室
- 定員=15人(申込多数の場合は抽選、少数の場合は中止になることがあります)
- 申込期限=10月19日(金)

問・目=企画政策課国際交流グループ ☎(64)0914

平成24年度自衛官募集

- 募集種目=高等工科学校生徒
- 受験資格=男子で中卒(見込み含む) 17歳未満の方
- 受付期間=11月1日(木)～平成25年1月7日(月)まで
- 試験期日=平成25年1月19日(土)

問=自衛隊鹿児島地方協力本部国分地域事務所
☎(45)1836

天降川地区共同利用施設自主講座

■アロマセラピー講座

～色・香り・味を楽しむハーブティーレッスン～

- 日時=11月13日(火) 午前10時～正午
- 定員=20人(成人女性)
- 準備するもの=筆記用具、ティーカップ
- 場所=中会議室
- 受講料=1,500円(材料代込み)

- 申込方法/期限=直接または電話で/定員になり次第
- 美容と健康に!楽しいフラダンス(初心者向け)
- 日時=11月6日、20日、12月4日、18日、1月15日、29日、2月12日、26日、3月5日、19日(火曜、全10回) 午後1時～3時

- 定員=20人(成人女性)
- 準備するもの=筆記用具、タオル、飲み物。
- 場所=2階ホール
- 受講料=4,200円(全10回分、CD1枚込み)

●申込方法/期限=直接または電話で/定員になり次第
問・目=天降川地区共同利用施設 ☎(43)1951

8 9 9 4 3 9 4

お手数ですが
50円切手をお貼りください

霧島市役所 秘書広報課 行

(No.152/2012.10)

◎ご氏名
フリガナ _____

年齢/ _____ 歳 性別/ _____ 男・女

◎ペンネームまたはイニシャル _____

※記入がない場合、実名で記載させていただきます。

◎ご住所 □□□□□□□□ _____

電話 (_____) _____

おたより 待ってます

この広報誌を読んだ感想や今後取り上げてほしい記事、霧島市への思い、あなたの周りであった身近な出来事や話題など、何でも好きなことを書いてください。

お便りをくださった方の中から「鹿児島空港周辺スペシャルコース(約10分)」3人1組の遊覧飛行を1人の方にプレゼント。応募締め切りは10月19日(金)当日消印有効です。当選の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

↑点線に沿って切り取ってください。(官製はがきでも可)



宮本智恵子さん(霧島)

Readers Voice

読者の声

このコーナーは読者の皆さんからの声を伝えるページです。本誌への感想、霧島市への思いなど、たくさんのお寄せください。



鹿 児島100km徒歩の旅」という事業に参加しました。4泊5日の短かったような長かったような旅でした。足が痛くてつらい日も、泣きたい日もありました。でも、全く知らない班の人ともすぐに仲良くなれて楽しい思い出もたくさんできました。私はこの事業で学びました。「やればできる」ということを。事前報告会や本事業、反省会が終わった後は少しさびしい気持ちもありました。100km歩いた6年生の夏休みは大事なことを教えてくれた私の大切な思い出です。(マリンH・T12歳女性)

「やればできる」。若い時の経験は将来の自分に必ずプラスになります。

再 開かれてから初めて高千穂峰に登りました。「どのように変化したかな」と思っていると、登山道も砂や小石などに覆われて階段なども見えませんでした。赤松も枯れているものもありました。登っている途中、「ここが一番苦しいところ。もう少しで頂上ですよ」「気持ちがいいですね」などと声をかけてもらい元気が出ました。一緒に登った息子も「自然に触

れ気分がよかった」といい顔をしていました。頂上で主人は「懐かしい気がする」と言い、おにぎりはおいしくて達成感・満足感でいっぱいでした。(大山レンゲ大好き64歳女性)

私も高千穂峰に登り、噴火に負けず咲いているミヤマキリシマを見て感動しました。

最 近、医者通いに市内循環バスを時々利用します。乗り合わせた方とまるまることがあります。車と違ってバスは面倒なこともあります

が、「バスに乗る楽しみもあるんだなあ」と喜んでいますが、ただ乗客が少ないのは残念な気がします。(サイ62歳女性)

知らない人のおしゃべりなんてちょっとした旅気分です。男の学校のPTA活動で、今年広報部の役員になりました。いわゆる新聞作りです。読み手のことを一番に考え、テーマを決めてから情報収集、文章決めなど、考えなければならぬことが山積みで普段使わない頭はフル回転。何気なく読んでいた広報誌も大変な思いで作られているんだと思うと以前とは違った感情で目を通していきます。(広報部ママ35歳女性)

それだけ苦労して作った新聞。たくさんの人に読んでほしいですね。

夏 休み、お父さんが勉強をしようとして二人で近所の畑に行きました。高速道路の単人東インター近くで生ま

た。二人もオリンピック選手が出るなんて。次回のブラジル大会も寝不足になりそうです。

自 治会の月見の会でみんだげッターというものを借りに行きました。ひもでつながった2つのボールをパイプに巻きつけて点数を競うゲーム。単純ですがこれが結構盛り上がりました。ほかにいろいろなニュースポーツがあることにびっくり。無料で貸してもらえると、たまに違うゲームをいれるとおもしろいですよ。これを利用しない手はない(笑)。国分の体育館で借りることができます。知らない(笑)。利用しなきゃ損ですね(ピクシス47歳女性)

この他に20人の方からおはがきをいただきました。文章は添削させていただきました。

12 日間に渡るオリンピックピックを味わいました。パラリンピックでも力を出し切った素晴らしい競技を涙ながらに観戦し、次々と増えていくメダルに感激の連続。今回のオリンピックで多くの元気をもらいました。特に女子バレーでは福山出身の新鍋理沙選手の連日の活躍。サブリーダーの守りは「守備の要」とも言われ、連日新聞で大きく報道されました。私も毎日、市役所での応援に通い続けま

した。「ニッポン、リーサル」という皆さんで一体となった応援合戦。頼には小さな日の丸のシール、得点が決まるたびに応援バルーンを力いっぱいたたきました。県外にいる同級生から「見たよ。すごかったねえ」と電話が入りました。新鍋さんは帰国後、スポーツ栄誉賞や知事表彰も受けられて大きな喜びに沸いたオリンピックでした。いっばいの夢と感動をありがとうございました。(きりしま市70歳女性)

霧 島市から前田選手、新鍋選手が出場。バレーボールの新鍋選手は「銅メダル」でした。両名の活躍に心から拍手を送るとともに若い二人の今後のさらなる活躍を期待します。そして、4年後のオリンピックに出場し、二人とも「金メダル」を取ってほしいです。その時は霧島市内で祝賀パレードをしてもらい、霧島市全員でお祝いしましょう。4年後に「夢と感動をありがとう」と言える日を楽しみに毎日頑張ります。(霧島人60歳男性)

歩いてみると車を運転しては気付かない新たな発見があります。

体育指導委員が教えるニュースポーツの出前講座もあるのでご利用ください。

この他に20人の方からおはがきをいただきました。文章は添削させていただきました。

この他に20人の方からおはがきをいただきました。文章は添削させていただきました。

この他に20人の方からおはがきをいただきました。

この他に20人の方からおはがきをいただきました。

この他に20人の方からおはがきをいただきました。

この他に20人の方からおはがきをいただきました。

この他に20人の方からおはがきをいただきました。

私は周りをスギ林に囲まれた福山で育ち曾祖父は木材業、祖父は苗木生産と私自身林業と人工林の中で育ってきました。小さいころ、畑では従業員のおばちゃんたちが苗畑の仕事をしていた中で走り回り遊んでいたのを今でも思い出します。そういう環境で育ったからなのか、林業に関心を持ち高校進学も林業科のある学校を選択。卒業後は市外の森林組合に約6年務め、3年前に祖父の苗木生産を継ぎました。

霧島市は霧島国立公園という素晴らしい自然あふれるところ。霧島巡りに出掛けると温泉や景色のいいところがたくさんあり、天然林やスギ、ヒノキの人工林があります。私は人工林の中で育ったせいか、天然林よりも人工林に目がいてしまいます。

最近になって人工林の伐採放棄地が目立つようになった気がします。人工林は伐採してお金にするために植栽されたわけですので、皆伐自体に

は何ら抵抗はないのですがその後、植林されていないのが気になります。

市が行っている「霧島市10万本植林プロジェクト」事業



愛情込めてスギ苗を管理する砂田さん

子どもに残す霧島市の自然

◎砂田 博文

は、伐採放棄地に地域本来の植生である照葉樹林を植林し、バランスの取れた豊かな森にする取り組みです。人工林の中にも天然林に戻さないと

けない場所もたくさんあるとは思いますが、皆さんは知っていますか。二酸化炭素の吸収量が多いのはブナを主体とする天然林よりも、適正に手入れされたスギの方だということ。スギという花粉症の原因と言われ嫌われ者ですが、私たちが生活するうえで必要な存在ではないでしょうか。何を植えるかは自由です。しかし、人工林を伐採した後は何か植えないといけないのだと思います。私自身は伐採跡地の山を買い取り植林をしています。

私には、2歳9か月の長男がいますが、最近では「山に行ってみるか」と言う「うん」とついでに「うん」と言う「もっとあっちに行ってみよう」と私の手をひっぱり奥に行こうとします。そんな子どもの小さな手を握りしめながら、この子が生きる将来の霧島市はどうなっているのだろうと、ふと思うようになりました。

伐採放棄地が増え、荒れた

山が多くなっているのか、それとも今以上に人工林、天然林共に充実した自然溢れる霧島市になっているのか、どっちにするかは私たちのような若い世代の山への関心にかかっているのではないのでしょうか。現在、林業そのものが落ち込んでいる状況ですが、昔から身近にありすぎて忘れ去られていた人工林をもう一度見つめ直してほしいのです。身近にあるからこそ私たちの生活には欠かせない存在なのではないでしょうか。そんなことを思いながら私は来年も子どものために、植林を続けようと思います。

Profile



すなだ ひろふみ (29)
福山町出身。鹿屋農業高校林業科卒業。鹿児島県林業試験場で専門知識を学び森林組合に就職。鹿児島県青年林業士に認定され3年前に祖父の苗木生産を継ぐ。林業の繁栄を夢見て優良な苗木の生産と伐採放棄地の植林に取り組んでいる。

霧島市携帯サイト



携帯電話からも、霧島市の情報をご覧いただけます。パソコンをお持ちでないかたも、インターネット接続可能な携帯電話を利用して、霧島市ホームページの情報の一部を検索できます。

- ◎人口 / 128,346人(+89)
男性 / 61,738人(+59)
女性 / 66,608人(+30)
出生125人 / 死亡 98人
転入476人 / 転出411人
- ◎世帯数 / 58,887世帯(+65)
(平成24年9月1日現在)

↑点線に沿って切り取ってください。(官製はがきでも可)

10 PRESENTS

お便りをくださった方の中から 遊覧飛行をプレゼントします

「鹿児島空港周辺スペシャルコース(約10分)」3人1組の遊覧飛行を1名様にプレゼント。空から小型機で鹿児島観光をしてみませんか。きっと忘れられないすてきな思い出になります。ほかにも錦江湾周遊・霧島(新燃岳一周)・ナイトフライトコースなどがあります。ご希望のコース、時間も相談承ります。航空写真撮影、貸切チャーター飛行、宣伝飛行もあります。

◎☎=新日本航空(株)鹿児島本社 ☎(58)2211



※読者プレゼントを提供して下さる方を募集しています。秘書広報課広報広聴グループ ☎(64) 0955 までご連絡ください。

今月の表紙



ヒガンバナに羽を休めるチョウ (隼人町松永) 9月21日 午前10時4分

【撮影データ】

デジタルカメラ レンズ18~135mm F3.5~5.6 1/320 F5.6 ISO100

電車いすサッカーに励む塩入さん。左手にはスタッフや選手からもらった手作りのミサンガが巻いてあった。それは全国大会優勝や日本代表に選ばれてほしいとの思いが込められている。みんなの思いを胸に、感謝の気持ちを忘れずプレーしている姿に感動を覚えた(は)

さん親子を取材。お弁当の話聞きながら二人の仲の良さが伝わってきてほほ笑ましい。自分の高校時代を振り返る。そこには当たり前のように母が作ったお弁当があったのに感謝の気持ちを持っていただろうかと反省。当たり前って幸せなこと。お母さんありがとう(う)

霧島市上空の写真を撮ることになり鹿児島空港へ。4人乗りのセスナ機で身を守るの一本のシートベルト。ふわっと飛びたったセスナ機から見る錦江湾や霧島山は美しく写真を撮るのに夢中。2時間のフライトは車に乗っているような感覚だった。空を飛ぶって楽しい(た)

特集の2-3ページで掲載した岩戸さん。昨年4月に初めてお会いしたときは、まだ農業を学ぶ研修生。久しぶりにお会いすると、1.7%の畑を耕作する立派な農家でした。自慢の畑で取れたニンジンを手に見せる笑顔は自信にあふれていて、なんだかうれしくなりました(み)

市長コラム 前田終止

霧島市の元気印「農業」
静岡県掛川市で開催された「第66回全国茶品評会」において、霧島市が団体部門の名産である「産地賞」を3年連続で受賞し、個人部門では溝辺町の有村春明さまが「農林水産大臣賞」を受賞され、2年連続のダブル受賞という名譽に輝きました。これは、生産者の皆さま方のゆるぎない努力の賜物であり、名実ともに霧島茶が日本一の茶産地である証となりました。今後とも「霧島茶」ブランドの確立とさらなる販路拡大に努めてまいります。

5年ごとに開催される和牛のオリンピックこと「第10回全国和牛能力共進会鹿児島県最終予選会」で、第6区高等登録群の鹿児島県代表として、福山町の久米村一盛さまと反田悟さまの出品牛3頭が県代表に決定。長崎県で開催される全国共進会に出品されます。昨年10月に溝辺町の最勝寺秀美さまがホルスタインの未經産牛でグラッドチャンピオンを獲得。黒豚や黒さつま鶏も含めて畜産のまち「霧島市」のブランド化にも期待が持てます。農業も元氣なまち霧島市です。